

# 平成18年度 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 事業大綱 (案)

## 〔基本方針〕

修学旅行は、最大の学校行事であり学校教育の総仕上げとして生徒の人間形成上重要な我が国独自の伝統的教育行事である。

近畿地区公立中学校修学旅行委員会は、大きく変化する社会の中で学習指導要領のねらいの一つである「自ら学び、自ら考える力」の育成と、修学旅行の三原則 安全性の確保・教育性の高揚・経済性の適正化 を目指して修学旅行のあり方を追求してきた。

修学旅行はかつてのような見学・知識習得という一方向的な学習の場ではなく、現在では触れ合い・共感・共生等を重視した双方向性を持った学習の場へと大きく方向を変えてきている。

そのことを踏まえながら修学旅行での「学び」に視点をあて、新しい教育・変化する教育に対応しつつ、「学び」のある修学旅行がいかに人間の成長に関わっていくかを考察し、「学び」のある修学旅行の創造を探求していく。

平成18年度、近畿地区公立中学校修学旅行委員会は永年に亘る委員会活動の伝統と実績を踏まえ、当地方の公立中学校が実施する修学旅行の改善・向上を目指すと共に、新たな課題に積極的に取り組むこととする。

## 〔重点推進事業〕

### 研究活動の充実

#### 1 研究大会

資料 2

(1) 第21回近畿地区中学校修学旅行研究大会を成功させるために、各府県の協力を得て時代に即した修学旅行のあり方を研究する。

- ・ 開催日 平成18年11月17日(金) 午後1時 ~ 午後4時
- ・ 会場 「ルビノ京都堀川」  
京都市上京区東堀川通下長者町下ル (075-432-6161)
- ・ 研究テーマ 「修学旅行における『学び』の創造」
- ・ 発表府県 《発表》 滋賀県 高島市立高島中学校  
《発表》 京都府 八幡市立男山東中学校

(2) 研究大会の持ち方について(第一回検討会 平成17年12月13日) 【資料 1】

昭和59年から2校発表が続いているが、最近の研究大会に対する要望として、「発表を1校にして、残りの時間を『あるテーマに関する提案・発表とそれに関する研究協議』等にして、より深めてはどうか。」が上がってきている。この問題については15年度に「研究大会の継続」が決定され、17年度に「19年度から、当分1校発表とあるテーマに沿った提案等」に変更と運営委員会で方針が決められており、18年度において具体的に進めていく。

## 2 修学旅行実施状況調査

別紙調査書

(調査項目等)

- ・ 訪問地調査
- ・ 費用に関する調査
- ・ 輸送方法調査
- ・ 修学旅行先の検討状況
- ・ 体験学習

「体験学習の調査について」

近畿・東海・関東三地区公立中学校修学旅行連絡会(平成18年1月27日)において、18年度実施状況調査で三地区同一様式で「体験学習」についての調査をしてはどうかとの提案が全修協からあり、了承された。

この調査結果は、例年のように全修協のHP(<http://shugakuryoko.com>)に掲載されます。

- ・ その他(危機管理について)

過去にあった修学旅行中の事件・事故や、そのことにどう対応したかを調査し、事例集を作ってもらえればより幅広く事前の安全対策や安全教育が可能になると考える。

(17年度修学旅行実施状況調査のご意見より)

## 3 修学旅行現地研修会

資料 3

### 《目的》

これからの時代にふさわしい修学旅行先の研究・開拓。  
生徒の成長に役立つ体験学習の開拓。

### 《時期・研修先等》

時 期 平成18年8月18(金)~19日(土)  
研 修 先 ・鹿児島県(知覧での平和学習を中心に)。

## 集約輸送について (P9~11に資料)(参考 別紙集約申込み書一枚目)

近修委・各輸送関係機関と連携を密にして、修学旅行生の輸送が安全に、且つ円滑に実施できるよう努力する。

集約離れが進んでいる中、経済性の適正化の観点から集約輸送の利用に戻る方策が実を結ぶようねばり強く努力する。(集約列車を利用すれば、関東方面・九州方面共に特急料金が半額になるため往復で5000円程度交通費が安くなる。)(平成17年度 修学旅行実施状況調査の意見欄にも「経費の軽減の面で考えれば集約を利用すべきである。」との意見が書かれている。)

### 平成19年度近修委集約輸送の申込み状況

- ・ 学校数 267校(18年度 282校 対前年度比94、7%)
- ・ 輸送人員 40、009人(18年度42、647人 対前年度比93、8%)
- ・ 運転期間 平成19年4月18日 ~ 6月13日

	関東方面		信州・北陸		中・四国		九州方面		合計	
	校数	人員	校数	人員	校数	人員	校数	人員	校数	人員
大阪府	6	908	0	0	0	0	15	2437	21	3345
京都府	16	2087	0	0	0	0	2	262	18	2349
兵庫県	63	7300	0	0	0	0	48	8459	111	15759
滋賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奈良県	4	446	0	0	0	0	0	0	4	446
小計	89	10741	0	0	0	0	65	11158	154	21899
大阪市	22	3165	14	2381	1	141	15	2533	52	8220
京都市	19	3015	0	0	0	0	5	811	24	3826
神戸市	23	3316	0	0	0	0	14	2748	37	6064
小計	64	9496	14	2381	1	141	34	6092	113	18110
合計	153	20237	14	2381	1	141	99	17250	267	40009
18年度	166	22445	14	2516	1	120	101	17566	282	42647

### 航空機を利用した沖縄・北海道方面への修学旅行

沖縄・北海道方面への修学旅行は増加を続けている。特に沖縄方面へは増加の一途を辿っている。平成15年度には全修協が補佐的な立場(近修委事務局)で協力して、近修委が積極的に集約化問題に取り組んだが、課題も多くその後は特段の取り組みはしていない。神戸空港が開港され、沖縄・北海道方面へは3空港から出発が可能となるが、最寄りの空港から出発できない学校がでた場合混乱が予想される。また関東地方で航空機の利用が許可されれば

沖縄での混乱も予想されるので、課題があれば15年度に引き続き取り組みが必要ではない

	18年度	19年度
沖縄県	312校	356校
北海道	31校	42校

か。  
(近修委集約申込み時同時調査による。  
回答率 約90%。無回答140校)

### 情報連絡ネットの活用について

#### インターネットを活用する場合の課題

学校にインターネットが導入されてかなりの年数が経過している。市町村教育委員会等からの連絡等は教頭・教務主任等が毎日見て、職務遂行に漏れのないように努めているが、それ以外の情報を見たり、関連するHPを開いて資料とする専属の職員はなく、活用される例は大変少ない。

全修協のHPには三地区修学旅行実施状況調査の集計結果や修学旅行に関する有益な情報がたくさんあり、機会を捉えて活用するよう訴える。(http://shugakuryoko.com)

## 平成18年度事業予定（事務局の作業を一部含む）

月	事業内容
4	18年度諸活動の準備 総会の準備
5	委員の確認 総会案内状の発送
6	各府県教委並びに市町村教委に後援名義使用許可願いを発送。 （京都府教委には来賓祝辞と指導主事の派遣を依頼。） 平成18年度近公修委総会（6月23日金曜日） 平成18年度近修委総会（6月2日金曜日）
7	研究大会準備等（会場点検・指導助言者再確認）
8	平成18年度現地研修会（鹿児島県を中心に）（8月18～19日 金～土曜日） 近修委委員会（集約申込み書について）（8月29日火曜日）
9	第1回運営委員会（研究大会・実施状況調査）（月 日 曜日） 平成18年度修学旅行実施状況調査発送（月 日 曜日）
10	第2回運営委員会（月 日 曜日） 平成18年度修学旅行実施状況調査回収 近修委集約申込み締切
11	全国修学旅行研究大会〔平成18年11月11日（土）〕（日本科学未来館） 平成18年度近畿地区中学校修学旅行研究大会 開催日時：平成18年11月17日（金）（13:00～16:00） 会場：京都市 ルビノ堀川 発表校：・《発表》 滋賀県高島市立高島中学校 ・《発表》 京都府八幡市立男山東中学校
12	近修委（平成20年度集約輸送抽選会）（12月1日金曜日） 第3回運営委員会（研究大会の持ち方について）
1	関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連絡会代表者会議（19/1/26金）
2	第4回運営委員会（研究大会について・反省等）（月 日 曜日）
3	平成18年度のまとめと次年度への諸準備

（注） 印は近畿中学校長会修学旅行専門委員会（近修委）主催の会議